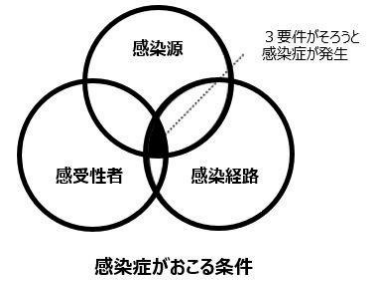




## そもそも、コロナワクチンはなぜ必要？

あけましておめでとうございます。新型コロナのパンデミックが始まって2年が経過しようとしています。今年もウィズコロナの生活を強いられそうです。変異株の出現により3回目のコロナワクチンの接種が急がれています。そもそも、なぜコロナワクチンの接種が必要なのか改めて右図を参考に考えてみましょう。

感染が発生するには感染源、感染経路、宿主(人)の感受性の三つがそろわることが必要です。一つでも欠ければ感染症は発生しません。現在、感染源対策としてはPCR検査や陽性者の隔離が、感染経路対策では緊急事態宣言による人流抑制や三蜜回避が、感受性者対策としてコロナワクチンによる発症予防がとられています。しかし、今回のコロナでは感染源対策と感染経路対策は、経済を犠牲にしてしまうので徹底はできません。そうするとワクチン接種により感受性者を少なくすることが最も効果的な対策となるのです。(know・vpd参照)



know・vpdより抜粋

### Q:子どものコロナの感染経路で最も多いのは？

A:昨年4月に文科省が公表したデータによると、家庭内感染が小学生で78%、中学生で64%と最も高くなっています。学校内感染はそれぞれ5%、7%と少なく、感染経路不明が11%、22%と家庭内感染について多くなっています。(know・vpd参照)

12歳以下(5歳～11歳)の子供たちにも、対象児へのワクチンが承認されれば、3月にも接種を開始する予定になっています。しかし、12歳以下の子どもへのワクチン接種については、子どもは発症しても軽症のため副反応との兼ね合いから議論が分かれるところです。

子どものコロナの感染経路の多くが家庭内感染であることを考えると、大人がコロナを持ち込まないことが重要です。そのためには、まずは保護者や学校関係者など周囲の大人がワクチン接種をすることが不可欠だと言えます。



### 12月の感染症情報

一般的な風邪ひきを除くと、感染性胃腸炎が多くみられました。幅広い年齢に見られ、学童児では嘔吐と発熱、乳幼児では下痢を伴うケースが多かった印象です。手足口病が引き続き散発的にみられました。インフルエンザの発生はありませんでした。



### 12月の利用状況

12月の利用延べ人数は34名で1日平均利用人数は1.6人でした。年齢別では、1歳児と2歳児が11人で最も多く全体の2/3を占めていました。疾患別では急性上気道炎がほとんどで、それ以外には感染性胃腸炎とアデノウイルス感染症がありました。感染性胃腸炎の登園基準について確認しておきます。保育所における感染症対策ガイドライン(2018年度版)によると、嘔吐、下痢がおさまり、普段の食事がとれることとなっています。下痢症状が完全に消失することが必要な要件とはなっていませんのでご注意ください。

本年度も、働くお母さん、お父さんたちのセーフティーネットとして鋭意努力してまいります。